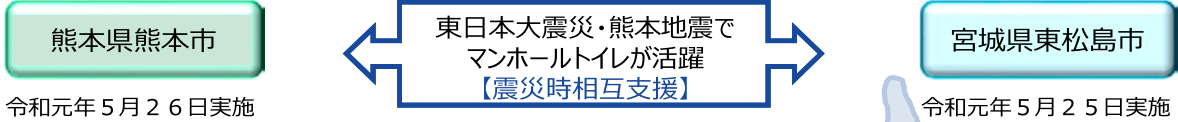


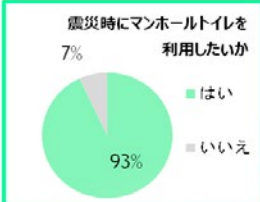
広報・教育部門

運動会でマンホールトイレ ～遠く離れた2つの都市からの発信～

東松島市・熊本市



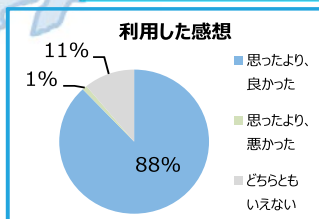
利用者
延べ120人
アンケート73人
【大人46人子供27人】



熊本市
2基設置



利用者
延べ770人
【男426人女344人】
アンケート 137件



東松島市
8基設置

約1,100km

両市では今後も意見交換しながら、
継続的に展示、イベント等の内容を全国に発信していきます。

PRポイント1

マンホールトイレに興味をもってもらい、多くの方に使ってもらえた！
マンホールトイレを実践した被災都市である東松島市と熊本市が連携し、小学校の運動会で使用した内容について発信しました。東松島市からはこれまでイベント等において普段使いを実践した成果を、熊本市からは地震災害の知見を提供し、小学校の運動会の運営について話し合い実現しました。当日は、マンホールトイレに興味をもってもらい、多くの方に使ってもらえました。アンケートを行った結果、両市とも約90%の方から好意的な感想をいただきました。

PRポイント2

設置運営の課題が見え、今後の施設の改善につながる！
今回の運営で新たな課題点を見つけることが出来ました。課題は、テントの中が暑い、ポンプ使用が分かりづらい、ペーパーの予備置き場がない、使い方が分からない、子供には開閉チェックが高すぎるなど、実際に利用しなければ見えてこないものでした。運動会等での設置運営は、今後の施設の改善につながると思っています。

Key Person



熊本市上下水道局
管路維持課長 藤本 仁

運動会でマンホールトイレを使用するにあたり、小学校からの全面的な協力を受け、多数の教職員と保護者の方々に参加いただきました。マンホールトイレの普段使いについては、これまで8回実施しており、回数を重ねる毎に、積極的に設置運営に参加する方々が増え、防災意識の高まりを感じているところです。今後も、被災都市同士、熊本市と連携して普及啓発を進めながら、施設の充実を図り、安心安全で快適なマンホールトイレを目指していきます。

昨年7月、NPO法人主催の「災害時のトイレ・下水道フォーラム」にパネリストとして参加した際、災害時と平常時におけるマンホールトイレの活用について意見交換したのですが、東松島市さんと席が隣になったことが事の始まり（いっしょにやりましょう）です。これからも被災都市である両市が連携してマンホールトイレの普及にドライブをかけていきます。



東松島市建設部
下水道課長 八木 哲也